



▲市立図書館が開館（昭和58年）



▲あだたら高原少年自然の家が二本松市（福島県）にオープン（昭和56年）



▲市制施行25周年・文化都市宣言記念式典（昭和58年）



▲台風18号による被害（昭和57年）

昭和59年（1984年）		昭和58年（1983年）					昭和57年		昭和57年（1982年）				昭和56年（1981年）					昭和55年							
9月	5月	4月	3月	12月	11月	9月	7月	6月	5月	4月	3月	12月	11月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月			
NHKが衛星テレビ放送開始		千間台中学校が開校 老人福祉センター「けやき荘」が開館 建築行政全般を司る特定行政庁となる オーストラリアのニュー・サウス・ウェールズ州キャンベルタウン市と姉妹都市提携調印 西体育館が開館 越谷張り子だるまが県伝統的手工芸品に指定される グリコ・森永事件。1万円、5000円、1000円の新札が発行される。		越谷総合食品地方卸売市場が開場 第2次越谷市総合振興計画基本構想が策定される	大韓航空機墜落事件。三宅山噴火。東京ディズニーランドが開園	市制施行25周年・文化都市宣言記念式典が執り行われる 第1回消費生活展を開催 消防署大相模分署が開署 越谷ひな人形が県伝統的手工芸品に指定される	移動図書館しらこぼと号が2台になる 第1回伝統的地場産業合同展示会を開催	市立図書館が東越谷に開館する 第1回市民環境賞が決定 蒲生電話局が開局	公共下水道が蒲生の一部で供用開始 大相模中学校が開校 市立図書館が東越谷に開館する	環境管理計画が策定される 公共下水道が蒲生の一部で供用開始	日航機が羽田沖に墜落。新しく500円硬貨が発行される。東北新幹線、上越新幹線が開通	急事業に採択される	台風18号により市内に被害がでる	法務局が東越谷に開設 越谷警察署が東越谷に新築・移転 新方川改修が河川激甚災害対策特別緊急事業に採択される	台風18号により市内に被害がでる	元教育長の秋山長作氏が4人目の名誉市民になる	南体育館が開館 県立越谷東高等学校が開校 シルバー人材センターが設立される 福祉環境整備要綱が実施される	越谷アメニティ八景が市民投票で決定 都市提携委員会が発足	台風18号により市内に被害がでる	夕張炭鉱（北海道）で事故が発生 せんげん台駅南陸橋が開通	台風24号により市内に被害がでる 市長選において島村慎市郎氏が再選 福井謙一氏がノーベル化学賞を受賞。	あだたら高原少年自然の家が福島県二本松市に開館 福祉タクシー利用料金補助制度を開始 東部清掃組合第二工場し尿処理施設が完成	第1回公民館フェスティバルが越谷コミュニティセンターで開催 鉄道高架化促進期成同盟会が結成される 千間台小学校、桜井南小学校、新栄中学校が開校 地域体育館として初の北体育館が開館 目の不自由な方へのガイドヘルパーが始まる	見田方遺跡公園に郷土資料収納館が完成	葛西下流地区地盤沈下対策事業として古利根堰の改築に着手（対策事業は昭和54年6月にスタート） イラン・イラク戦争が始まる。1億円拾得事件。オリンピックモスクワ大会に日米中独などが不参加

昭和60年～平成6年

快適で便利な生活のため 都市基盤を整備

日本経済が安定成長に移行したところから人口の増加が落ち着きはじめ、スポーツや文化活動などの健康的で余暇を楽しむ生活が求められ、各施設の整備や各種団体の育成などの施策が進められました。昭和60年（1985）には、人口が25万人を突破しました。また、快適で便利な生活が営めるよう、道路や橋、公園、公共下水道、鉄道の高架複々線化事業など都市基盤の整備が進められました。昭和62年には、児童館「コスモス」の開館や県民健康福祉村のオープンがありました。昭和63年には、市制施行30周年を記念して「シラコバト」が市の鳥に制定されました。

平成に入ると東武鉄道伊勢崎線の連続立体交差事業が着工されました。平成3年（1991）には近隣公園として、全国初の本格的日本庭園「花田苑」が、平成5年には「こしがや能楽堂」が開館しました。平成6年には、一部高架が開通し、元荒川以南の踏切8カ所が解消されました。また、市の鳥「シラコバト」をデザインしたしらかばと橋が開通し、市のシンボルとなりました。



▲児童館コスモスが開館〔昭和62年〕



▲あだたら高原「ふれあいの森」の植樹〔昭和61年〕



▲市制施行30周年記念式典〔平成元年〕

平成2年(1990年)	平成元年(1989年)	昭和63年(1988年)	昭和62年(1987年)	昭和61年(1986年)	昭和60年(1985年)
7月 4月 3月 2月	11月 10月 8月 7月 4月 1月	11月 10月 8月 6月 5月 4月 3月 2月 1月	11月 9月 7月 6月 5月 3月	11月 10月 8月 5月 4月 1月	11月 10月 9月 7月 5月 4月 3月 1月
花田小学校が開校 インテリジェント・シティ整備基本計画が承認される	「越谷発・地球環境シンポジウム」を開催 吉越橋が開通 昭和天皇崩御、「平成」と改元。消費税が導入される(3%)。ベルリンの壁崩壊。東京証券取引所の平均株価が史上最高値(38915円)をつける	建設省から63年度インテリジェントシティの指定を受ける 市制施行30周年記念式典が執り行われる 越谷都市計画都市高速鉄道東武鉄道伊勢崎線連続立体交差事業が着工開始 越谷駅西口が開通 市長選において島村慎市郎氏が4選 初代越谷市長で名誉市民の大塚伴鹿氏の市葬が行われる 昭和天皇崩御、「平成」と改元。消費税が導入される(3%)。ベルリンの壁崩壊。東京証券取引所の平均株価が史上最高値(38915円)をつける	東武鉄道伊勢崎線連続立体交差事業が開設 小鹿野町に市民保養施設「おがの山荘」を開設 総合体育館が完成	あだたら高原「ふれあいの森」の植樹を開始 台風10号により市内に被害がでる 越谷駅前通りの電線埋設工事が始まる 新方川・綾瀬川が河川激甚災害対策特別緊急事業に採択される 定野野橋が開通 スペースシャトル「チャレンジャー号」爆発。大島三原山大噴火。チエルノブイリ原発事故。東京サミットが開催 越ヶ谷久伊豆神社周辺と宮内庁埼玉鴨場を環境保全区域に指定 児童館コスモスが開館 県民健康福祉村がオープンする せんげん台駅東口が放置自転車整理区域に指定される	地盤沈下対策事業として逆川改修が始まる アメニティタウン計画が策定される 防災行政無線市内98カ所に設置 東部清掃組合第二工場ごみ処理施設が稼働する 人口が25万人を突破 全国初のふれあい公園(借地方式)制度を開始 環境保全条例が制定される 市長選において島村慎市郎氏が3選 市立病院で世界初の卵管内受精による赤ちゃんが誕生 第1次行政改革大綱が策定される 日航機が御巢鷹山(群馬県)に墜落。つくばで国際科学技術博覧会が開催 環境保全条例が施行される 越谷郵便局の新局舎が完成 地裁家裁簡易裁判所が東越谷に移転 県立越谷総合技術高等学校が開校 キャンベルタウン市からの初の公式使節団が来市 あだたら高原「ふれあいの森」の植樹を開始



▲老人福祉センター「くすのき荘」が開館〔平成5年〕



▲日本庭園 花田苑が開園〔平成3年〕



▲一部（下り）が高架となった東武鉄道伊勢崎線〔平成5年〕



▲中央市民会館が開館〔平成4年〕

平成6年（1994年）				平成5年（1993年）				平成4年				平成4年（1992年）				平成3年（1991年）				平成2年（1990年）									
11月	10月	9月	8月	4月	2月	10月	6月	5月	4月	3月	2月	9月	8月	7月	6月	4月	2月	12月	11月	10月	9月	8月	5月	4月	3月	10月	8月		
松本サリン事件が発生。大江健三郎氏がノーベル文学賞を受賞。関西国際空港が開港 しらこぼと橋が開通 東武鉄道伊勢崎線（上り）の一部高架が開通し、元荒川以南の踏切8カ所が解消				救急救命士（1月誕生）による高規格救急車が稼働 農水省主催の「農村環境保全機能シンポジウム」を開催 総合福祉計画が策定される 資源化センターに、不燃ごみの最終残渣ゼロを目指し、比重選別機導入 架け替えた不動橋が開通 市民球場がオープン 建設省の平成6年度環境共生モデル都市（エコシティ）に指定される 図書館に野口富士男文庫開設				皇太子徳仁親王、小和田雅子さんとご成婚。日本初のプロサッカー「Jリーグ」が開幕 救急救命士（1月誕生）による高規格救急車が稼働 農水省主催の「農村環境保全機能シンポジウム」を開催 総合福祉計画が策定される 資源化センターに、不燃ごみの最終残渣ゼロを目指し、比重選別機導入 架け替えた不動橋が開通 市民球場がオープン 建設省の平成6年度環境共生モデル都市（エコシティ）に指定される 図書館に野口富士男文庫開設				千代田橋が開通 日本文化伝承の館「こしがや能楽堂」が開館 老人福祉センター「くすのき荘」が開館 資源化センターに全国初のフロン回収装置を導入 東武鉄道伊勢崎線（下り）の一部高架が開通 市長選において島村慎市氏が5選 皇太子徳仁親王、小和田雅子さんとご成婚。日本初のプロサッカー「Jリーグ」が開幕				日本人宇宙飛行士毛利衛氏がスペースシャトル「エンデバー号」に搭乗。国連平和維持活動協力法（PKO法）が成立 環境自治体国際会議'93こしがや開催 エコトピア計画が策定される 資源化センター内の不燃物処理・資源化施設稼働 千代田橋が開通 日本文化伝承の館「こしがや能楽堂」が開館				湾岸戦争が始まる。雲仙普賢岳が約200年ぶりに噴火。ソビエト連邦が消滅し、11の共和国へ 新栄橋が開通 貯水量40万トンの大吉調節池が完成 全国から約1000人が参加し、「地域づくり全国交流会議」を開催 越谷市で初の国際会議「第7回日仏アムニティ会議」を開催 大杉橋が開通 第1回建築景観賞を決定 近隣公園として全国初の本格的な日本庭園「花田苑」が開園				自治省の「地球情報ネットワーク整備構想」の指定を受ける 台風18号により市内に被害がでる 県東南部都市連絡調整会議が発足 建設省「うるおい・緑・景観モデル事業」の指定を受ける 第2次越谷市総合振興計画後期基本計画がスタート 花田第六公園に宇田家長屋門が復元 環境庁の「アメニティあふれる優良地方公共団体表彰」を受ける バブル経済が崩壊。東西ドイツが統一、ドイツ連邦共和国が誕生。大学入試センターが第1回試験を実施				こしがや能楽まちづくり推進事業を開始 花田第六公園に宇田家長屋門が復元 環境庁の「アメニティあふれる優良地方公共団体表彰」を受ける バブル経済が崩壊。東西ドイツが統一、ドイツ連邦共和国が誕生。大学入試センターが第1回試験を実施	

平成7年～平成20年

越谷らしさを前面に打ち出した
魅力的なまちづくりへ

地方分権の進展により個性的で魅力的なまちづくりが求められるようになり、人口の増加も緩やかとなり都市施設が充実し、成長するまちから成熟するまちへと変わりつつあるなかで、安心して健やかに暮らすことのできるまち、自然と共生する緑豊かなまちが求められました。

平成7年（1995）には、県立越谷西高等学校が市内で初の夏の甲子園出場の快挙を成し遂げました。平成8年には、人口が30万人を突破し、平成9年には、東武鉄道伊勢崎線が越谷駅以南で高架複々線となり、ますます利便性が高まりました。平成10年には、市制施行40周年記念式典が執り行われ、市のシンボルマークと子ども憲章が発表されました。平成11年には、福祉のまちの実現を目指して「福祉憲章」を制定しました。また、市民と行政との協働によるまちづくりを進めるため、第3次越谷市総合振興計画が平成12年に策定されました。平成16年には、彩の国まごころ国体の開催、国道4号線東埼玉道路が開通しました。平成19年には、リサイクルの拠点施設リサイクルプラザがオープンしました。

そして今、平成20年、越谷レイクタウンがま



▲県立越谷西高等学校が甲子園に初出場〔平成7年〕



▲市制施行40周年記念式典〔平成10年〕



▲埼玉県立大学が開校〔平成11年〕

平成12年(2000年)	平成11年(1999年)	平成10年(1998年)	平成9年	平成9年(1997年)	平成8年(1996年)	平成7年(1995年)	
11月4日 第3次越谷市総合振興計画がスタート 桜井公民館（あすはる）が開館 沖縄サミットが開催。三宅島噴火で全島民避難。白川英樹氏がノーベル化学賞を受賞	12月9日 越谷市子育てサロンが開設 越谷市福祉憲章を制定 越谷レイクタウン特定土地地区画整理事業に着手 地域振興券が発行される。脳死移植が初めて行われる 市役所第二庁舎が完成	4月1日 河川防災ステーションを併設した新方公民館（なのはな）が開館 埼玉県立大学が開校	11月7日 蒲生交流館、南部交流館が開館 市制施行40周年記念式典が執り行われる 子ども憲章、市のシンボルマークが制定される 冬季オリンピック長野大会が開催。郵便番号が5桁から7桁へ変更	3月 市立病院の増改築工事が完了し481床になる 県東南部5市1町で公共施設の相互利用（公共施設の一部を同一申込み時期、同一料金で利用可能）が開始 蒲生公民館（パコム）が開館 出羽公園越谷市相撲場がオープン 獨協医科大学越谷病院内に救命救急センターが開設 障害者福祉交流センター「しんめい」が開設 農業技術センターが開設 蒲生交流館、南部交流館が開館 市制施行40周年記念式典が執り行われる 子ども憲章、市のシンボルマークが制定される 冬季オリンピック長野大会が開催。郵便番号が5桁から7桁へ変更	12月10日 人口が30万人を突破 日米が普天間飛行場沖縄県などの返還に合意。病原性大腸菌「O157」による感染被害が相次ぐ 越谷駅以南の東武鉄道伊勢崎線が高架複々線となり、新越谷駅にも準急停車保育ステーションが新越谷駅前が開設 相生陸橋が開通 市長選において板川文夫氏が当選 島村慎市氏が市長退任 市立病院内「おおぞら学級」が、東越	4月1日 消防署大袋分署が開署 越谷甲冑が県伝統的手工芸品に指定される 市立病院に院内学級「おおぞら学級」が開設 大沢北交流館が開館 キャンベルタウン野鳥の森で公立動物園では全国初となるクルマサカオウムの人口ふ化に成功 緑の森公園越谷市弓道場がオープン 都市防災河川等整備構想に基づく防災取水ピットとマンホールの第1号が完成 福島県二本松市と災害時における相互応援に関する協定を締結 南部図書室（越谷コミュニティセンター1内）が開設	10月9日 「キャンベルタウン野鳥の森」が開園 東部清掃組合第一工場発電所が本格稼働 群馬県高崎市と災害時における相互応援に関する協定を締結 阪神淡路大震災が発生。地下鉄サリン事件が発生。円相場が1ドル70円台に第2次行政改革大綱が策定される 越谷甲冑が県伝統的手工芸品に指定される 市立病院に院内学級「おおぞら学級」が開設 大沢北交流館が開館 キャンベルタウン野鳥の森で公立動物園では全国初となるクルマサカオウムの人口ふ化に成功 緑の森公園越谷市弓道場がオープン 都市防災河川等整備構想に基づく防災取水ピットとマンホールの第1号が完成 福島県二本松市と災害時における相互応援に関する協定を締結 南部図書室（越谷コミュニティセンター1内）が開設



▲リサイクルプラザがオープン〔平成19年〕



▲男女共同参画支援センター「ほっと越谷」がオープン〔平成13年〕



▲越谷レイクタウンオープニングフェスタ〔平成20年〕



▲彩の国まごころ国体〔平成16年〕

平成20年 (2008年)	平成19年 (2007年)	平成18年 (2006年)	平成17年 (2005年)
11月 市制施行50周年記念式典を開催 北海道洞爺湖サミットが開催	8月 市民保養施設おがの山荘を廃止 越谷市安全で安心な防犯のまちづくり条例、越谷市路上喫煙に関する条例を施行 全国高等学校総合体育大会剣道大会を開催	11月 市民課で旅券(パスポート)の申請・発給業務を開始 最高気温40・4度を記録 越谷社会保険事務所がオープン リサイクルプラザがオープン 賞味期限改ざんや原材料偽装などが続き、「食」の安全・信頼が大きく揺らぐ。 日本列島74年ぶり猛暑、熊谷市(埼玉県)・多治見市(岐阜県)で40・9度	11月 JR西日本福知山線で脱線事故。愛知県で日本国際博覧会(EXPO2005)が開催。耐震強度の偽装で不安が広がる 荻島地区センター・公民館(たんぼぼ)が開館 第3次越谷市総合振興計画後期基本計画がスタート 中学校の学校選択制を導入 ごみの分別方法(8品目から15品目へ)が変更 南越谷公民館が文部科学大臣から優良公民館表彰を受賞 病児保育室が開設 ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で王ジャパンが初代王者に。 人口動態統計で初の自然減、人口減社会に突入。

平成17年	平成16年 (2004年)	平成15年 (2003年)	平成14年 (2002年)	平成13年 (2001年)
7月 越谷市男女共同参画推進条例を施行	4月 市立看護専門学校が閉校 産業雇用支援センター(ステップワーカーこしがや)がオープン	10月 彩の国まごころ国体開催、軟式野球(成年女子)が行われる 彩の国まごころ国体開催、サッカー(成年男子)が行われる 市内13地区に地区センターを設置 消防本庁舎が開設 越谷市まちの整備に関する条例を施行 新型肺炎SARSがアジアで流行。米スベイスシャトル「コロンビア号」が空中分解。個人情報保護法が成立、住基ネットが本格稼働 市内13地区に地区センターを設置	12月 小児夜間急患診療所が開所 福祉保健オンブズパーソン制度が開始 しらこぼと運動公園競技場がオープン FIFAワールドカップ日韓共同開催。 ノーベル賞受賞(物理学賞・小柴昌俊氏、化学賞・田中耕一氏) 東武鉄道伊勢崎線と地下鉄半蔵門線・東急電鉄田園都市線が相互乗り入れ開始 特別市に移行	10月 市長選において板川文夫氏が再選 アメリカで同時多発テロが発生。野依良治氏がノーベル化学賞を受賞 南越谷公民館(パレット)が開館 いきいき館(老人福祉センター「ゆりのき荘」と市民プール複合施設)が開館 福社保健オンブズパーソン制度が開始 しらこぼと運動公園競技場がオープン FIFAワールドカップ日韓共同開催。 ノーベル賞受賞(物理学賞・小柴昌俊氏、化学賞・田中耕一氏) 東武鉄道伊勢崎線と地下鉄半蔵門線・東急電鉄田園都市線が相互乗り入れ開始 特別市に移行



- ① 元荒川と葛西用水に架かるしらこぼと橋
- ② 大相模地区と蒲生地区を結ぶ相生陸橋
- ③ 国道4号と国道463号
- ④ 全線開通したころの国道4号草加バイパス(南荻島交差点付近)
- ⑤ 電柱が地中化された越谷レイクタウン地区内の道路



流通を支える道路から 都市機能の中の重要な役割へ

市内を南北に貫通する日光街道は、江戸時代の五街道のひとつに数えられ、国道4号となった現在でも、市と首都を結ぶ主要な幹線道路です。越谷市もこの道路を中心に発展してきました。

昭和33年(1958)の市制施行当時の人口は4万8318人、市内に自動車はわずか939台、51人に1台しかありませんでした。市では、昭和34年に決定された街路計画により都市計画道路の整備を順次進めてきました。昭和37年には、東武鉄道と地下鉄日比谷線の相互乗り入れが始まり人口が急増、草加バイパスの建設や新しい都市計画法が施行されて、都市計画道路は度々見直しが行われました。市内にある都市計画道路は、平成20年(2008)4月末現在で81路線あり総延長112キロメートルが計画決定され、整備が進められています。

道路は、古くから人の往来や物資の流通を支えてきました。近年では、電気・ガス・水道などのライフラインを収容する空間としても重要な役割を果たしています。また、災害時には避難経路となり、救援・救急活動を支えると共に、延焼を防止するなど都市の貴重な空間となっています。

東埼玉道路開通式



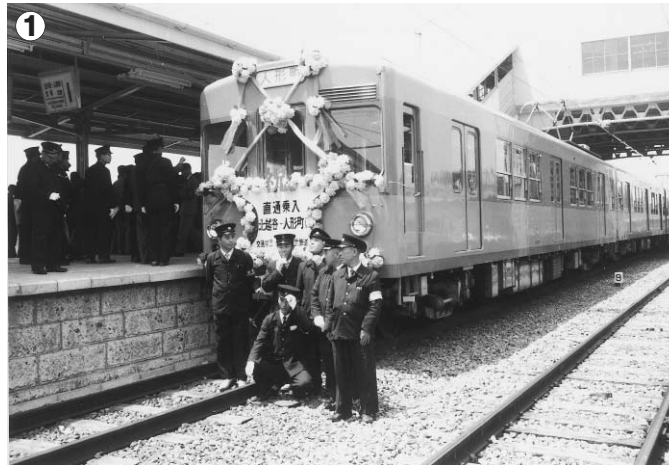
鉄道高架で市内東西の 往来がスムーズに

明治32年（1899）8月、越谷に初めて蒸気機関車が走りました。東武鉄道の北千住〜久喜間40・1キロが開通し、越ヶ谷停車場（現在の北越谷駅）が大沢町に誕生しました。その後、蒲生停車場、越ヶ谷停車場（現在の越谷駅。それまでの越ヶ谷停車場は武州大沢駅に改称）が設置されたほか、複線化、電化が進み蒸気機関車は次第に電車へと切り替えられていきました。

昭和37年（1962）に東武鉄道と地下鉄日比谷線が相互乗り入れ、昭和48年には、国鉄（現在のJR）武蔵野線が開通、昭和49年、武蔵野線南越谷駅との乗換駅として新越谷駅が開業し、通勤・通学がますます便利になりました。

鉄道は、市の発展に大きく貢献する一方で、中央を縦断することにより、まちを東西に分断するほか、踏切での交通渋滞や事故、鉄道輸送力の限界などの諸問題を抱えるようになりました。そこで、高架複々線化事業が計画されて平成元年（1989）から事業が始まりました。平成13年には、東武鉄道伊勢崎線の高架複々線が完成し、踏切が姿を消して交通渋滞は解消され、市の東西の隔たりがなくなり一体化が進みました。

平成15年には、東武鉄道伊勢崎線と地下鉄半蔵門線・東急電鉄田園都市線が相互乗り入れを開始、平成20年3月には、JR武蔵野線に越谷レイクタウン駅が開業するなど更なる発展を続けています。



- ① 地下鉄日比谷線乗り入れを祝う出発式
- ② 新越谷駅に停車する東武鉄道伊勢崎線の準急電車
- ③ 開業した南越谷駅に停車する武蔵野線の電車
- ④ 北越谷駅周辺の鉄道高架の工事
- ⑤ 鉄道高架になる前の越谷駅南側の踏み切り



越谷レイクタウン駅



浸水被害を軽減

河川・用水を整備

古くから「水郷こしがや」と呼ばれ、元荒川、大落古利根川、中川、葛西用水など多くの河川・用水が市内を流れています。肥沃な農地を潤す豊かな川の水は、時として洪水をもたらし農作物や生活に大きな被害を与えてきました。このため、河川整備事業の必要性が求められ中川水系など抜本的な治水事業が施行されました。こうした事業の進捗よくにもかかわらず、急激な都市化は水田の宅地化により保水機能を低下させ、集中豪雨による浸水被害がたびたび起こるようになりました。いわゆる都市型水害といわれるものです。そこで一級河川の整備とあわせて、浸水被害の大きい箇所については排水機場やポンプ場が建設されていきました。昭和57年（1982）と昭和61年の台風の際には、2度にわたり国の河川激甚災害対策特別緊急事業に採択され、川幅の拡幅や橋の架け替えなどが進められました。平成3年（1991）には、新方川の洪水を防ぐため広さ10・3ヘクタール、貯水量40万トンの大吉調節池が完成しました。さらに、平成11年には、水防のための監視室やヘリポートを備え、水防活動の拠点となる河川防災ステーションを併設した新方地区センター・公民館が開館しました。そして、平成20年には、大相模調節池をシンボルとした親水文化創造都市「越谷レイクタウン」がまち開きしました。



- ① 台風18号（平成3年）による浸水被害
- ② 改修工事が進められていた新方川
- ③ 大吉調節池
- ④ 越谷市洪水ハザードマップ
- ⑤ 河川防災ステーションを併設した新方地区センター・公民館



大相模調節池

